

# 令和6年度 加美町新庁舎建設 基本設計業務

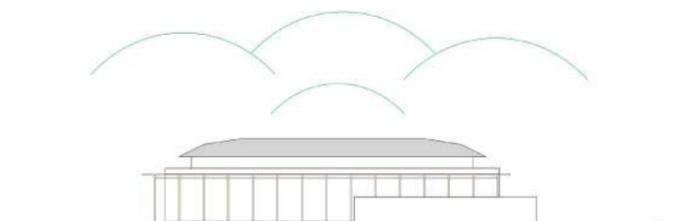
## 基本設計書 (概要版)

### 目次

設計方針	01
計画概要	02
建物概要	03
配置計画	04
平面計画-1	05
平面計画-2	06
立面計画	07
断面計画	08

東北設計計画研究所・E.I.S設備計画 設計共同企業体

令和7年3月



# 町をつなぐ拠点ホール - 新庁舎 -

加美町の風土に根ざし  
町民と行政がともに歩む



敷地南東からの全景

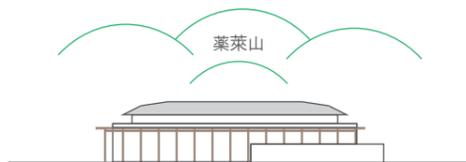
※パースは現段階のイメージです。

## concept 01

### 風土に根ざした加美町らしい庁舎

- 敷地は町の東端に位置し、西の薬菜山をシンボルに美しい山並みを望み、東には豊かな水田の風景がひろがります。新庁舎は東の玄関口に構えるゲートとして位置づけるとともに、西にひろがる町を見渡します。各地域のコミュニティをつなぐネットワーク自治の拠点ホールとして、加美町らしい、これからの庁舎をつくります。
- 建物により、加美町特有のつよい西風を遮り、東にメインエントランス、車寄せ、駐車場を設け、南西の広場を介し、町とつながる庁舎とします。建物の南には広場に面し、町民が気軽に利用可能な共用スペースを設けます。
- 町の伝統や文化を大切に、屋根が織り成す風景や山並みと調和する「大屋根」と周囲の「大庇＝裳階※」が建物をやさしく包み込み、日射を抑制し、風雨（雪）から建物を守ります。

※裳階（もこし）：仏堂や塔（五重塔）などで、軒下に設けられた庇状の屋根。屋根の下にもう一重屋根をかけることで風雨（雪）から建物を守る役割をもつ。

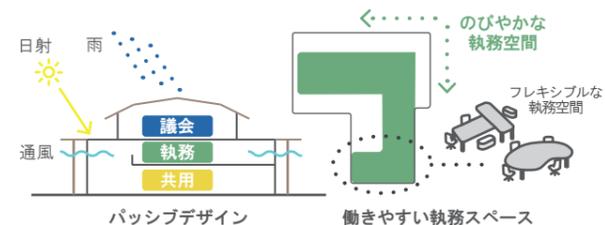


## concept 02

### 災害につよく、職員が働きやすい庁舎

- 耐震性能を高めた堅固な構造と災害用の設備を備えた防災拠点は太陽光発電などの自然エネルギーを利用し災害時にも持続可能な庁舎とします。
- 建物の軽量化を図りつつ、軟弱地盤において信頼性のある杭工法を選定し、支持層を確実に捉え、安心安全な庁舎を実現します。
- 自然の採光、通風を利用したパッシブデザインや建物の高断熱化、高効率機器の採用など、省エネ性能を高め、ZEB Ready※を取得し、環境への配慮とランニングコストの削減を図ります。
- 職員が働きやすいゆとりのある執務スペースとし、部署間の連携や会議、相談などの空間を充実させます。
- 時代による庁舎の役割や働き方の変化、町民との協働など、多様な状況に対応し、多機能に利用可能な空間を備えたフレキシブルな執務スペースとします。

※ZEB Ready：建物の基準一次エネルギー消費量から50%以上のエネルギー消費量削減に適合した建築物。

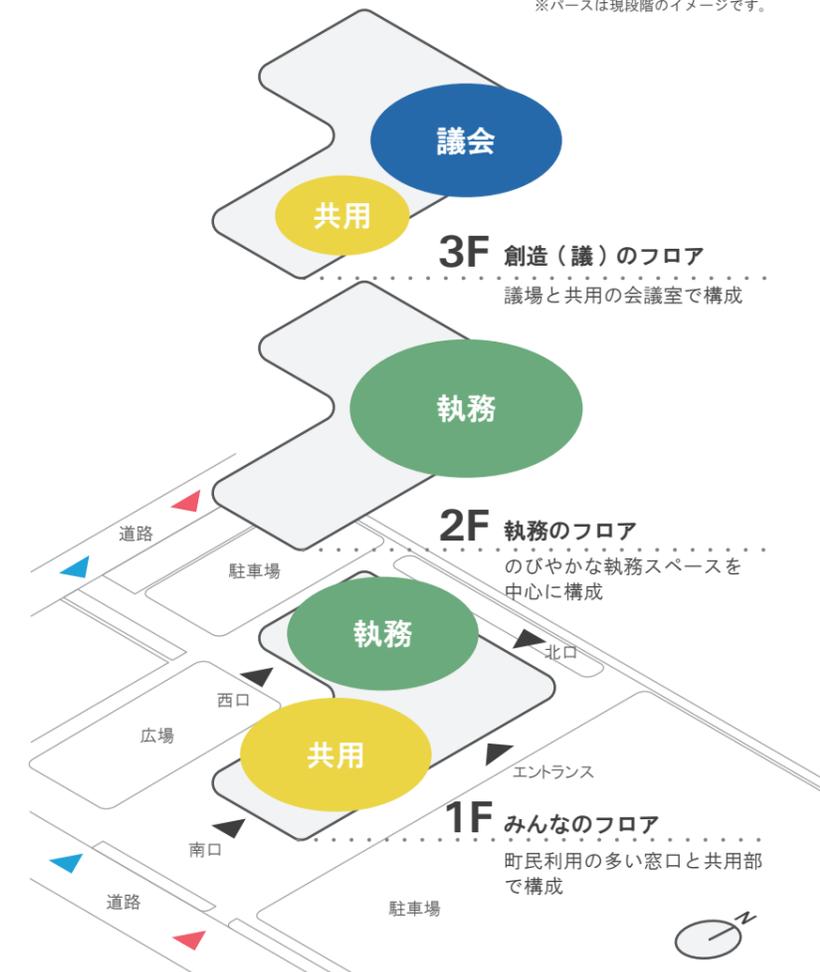


## concept 03

### まちをつなぎ、町民とともに歩む庁舎

- 各地域のコミュニティを大切にしつつ、地域の拠点に対して、新庁舎は各地域をつなぐとともに、行政と町民をつなぐ「町の拠点」とします。
- だれもが利用しやすいユニバーサルデザインによるバリアフリー対応、わかりやすいサイン計画、窓口のプライバシーや相談対応に配慮したみんなにやさしい庁舎とします。
- ワークショップなどの対話から、交流・子育て、情報観光、地域活性化などをキーワードに町民の多様な活動に対応し、町を盛り上げ、交流を促進する集いの場をつくります。
- みんなが利用可能な共用スペースをはじめ、町民も利用可能な会議室やワークスペースを設け、人口減少社会における、町民の行政参加、官民連携可能な地域共創型※の庁舎を目指します。

※地域共創：地域が抱える課題を解決し、理想の未来像を実現するため、住民や団体、企業などと協力し、地域を活性していくことで、人口減少社会の課題を解決する方法とされている。



加美富士-薬菜山をシンボルに美しい山並みと豊かな水田がひろがる町の風景



敷地の東から西にひろがる町を望む



敷地概要

- ・建築場所 宮城県加美郡加美町字矢越 11番地1、12~19番地、20番地1~26番地1
- ・主要用途 庁舎
- ・用途地域 都市計画区域内 区域区分非設定
- ・防火地域 指定なし
- ・その他の地域指定 建築基準法22条指定区域
- ・指定建蔽率 70%
- ・指定容積率 200%
- ・敷地面積 15,629㎡

建築概要

- ・建築面積 3,040㎡
- ・延床面積 5,530㎡
- ・建ぺい率 19.46%
- ・容積率 35.39%
- ・階数 地上3階
- ・建物高さ 14.15m
- ・駐車台数 約305台 (来庁者80台、職員用170台、その他55台)

構造概要

- ・構造種別 鉄骨造 一部木造
- ・構造形式 純ラーメン構造
- ・基礎形式 杭地業独立基礎

電気設備概要

- ・受電設備 高圧6,6kV 1回線受電方式
- ・自家発電設備 非常・防災用発電装置
- ・太陽光発電設備 太陽光発電パネル
- ・電灯設備 LED照明
- ・電話設備 屋光センサー、人感センサー
- ・放送設備 電話交換機 (IP網対応) 一般業務、非常放送 (全館) 個別放送 (共用スペース・会議室)
- ・TV受信設備 地上波デジタル放送、BS衛星放送 FMラジオ放送
- ・防犯設備 監視カメラ、警備用配管
- ・情報・表示設備 施設案内表示
- ・火災報知設備 自動火災報知設備 ※リース対応
- ・議場設備 乗用15人 (機械室レスタイプ) 定格速度 90m/min
- ・昇降機設備

機械設備概要

- ・空調設備 空冷ヒートポンプパッケージ型空調機 (高効率・寒冷地仕様)
- ・換気設備 全熱交換型換気設備、一部個別換気方式
- ・自動制御設備 主要機器類の自動運転及び遠隔集中管理
- ・給油設備 地中オイルタンクから発電機への給油
- ・給水設備 受水槽加圧給水方式、災害時用の貯水
- ・給湯設備 電気式個別方式
- ・排水設備 公共下水道接続、自然流下方式
- ・消火設備 屋内消火栓設備、消火器

工事費概算

	基本設計時(R7.03)	工事発注時(R7.12)見込
新庁舎建設費	27.4億円	30.1億円
外構工事費	2.7億円	3.0億円
合計	30.1億円	33.1億円

※金額は税込 備品関連費用を除く

想定事業スケジュール



大屋根と大庇が建物をやさしく包み込む加美町らしい庁舎



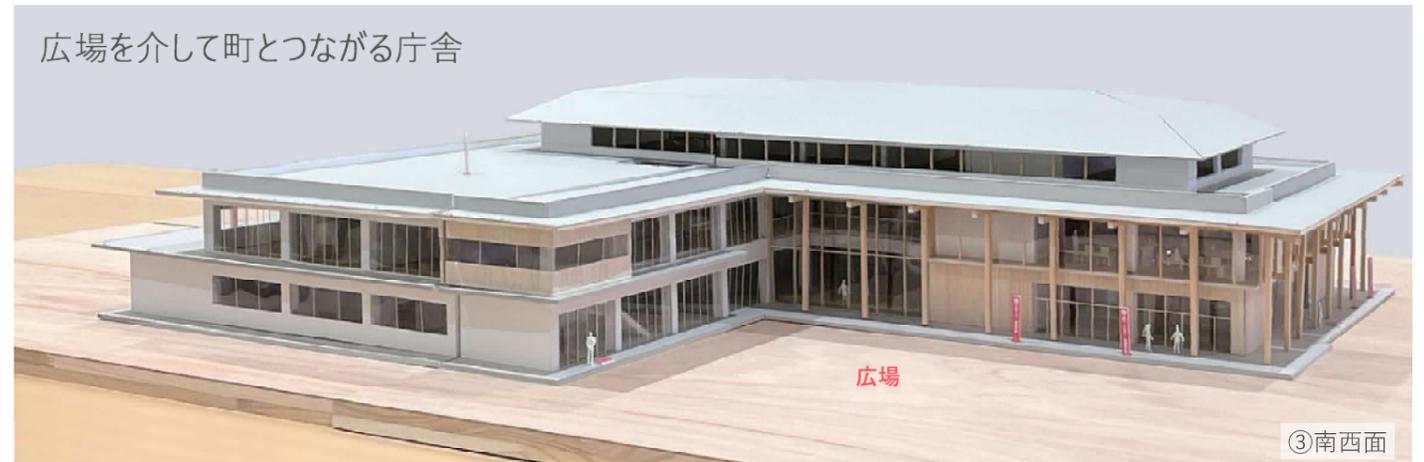
①東面

南のひらかれた町民スペース



②南面

広場を介して町とつながる庁舎



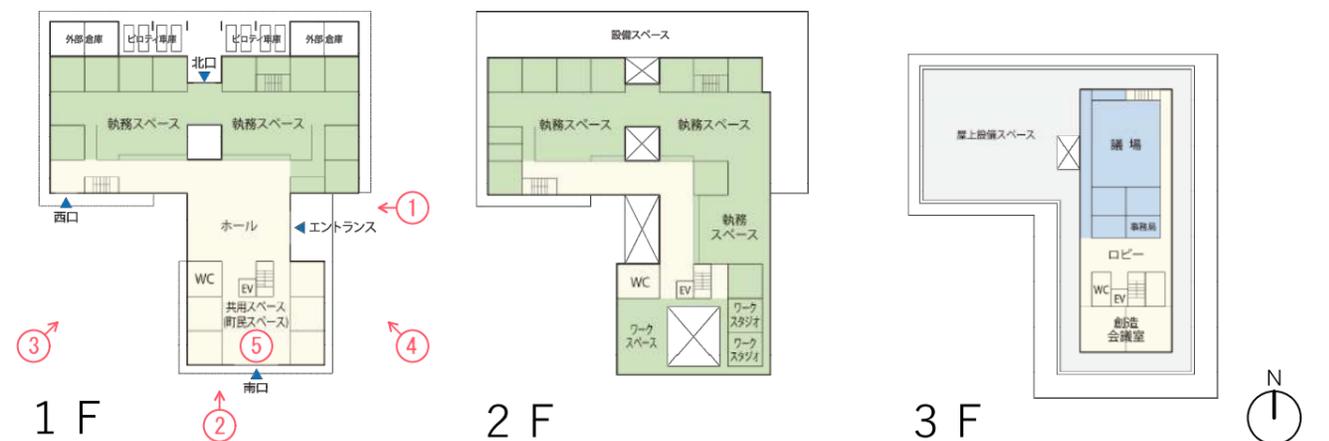
③南西面



④東面(エントランスと車寄せ)



⑤内部空間



配置 -風土に根ざした敷地利用計画-

構成

- ・建物により、加美町特有のつよい西風を遮り、東にメインエントランス、車寄せ(バス停・乗降エリア)、駐車場を設け、利用者の利便性に配慮し、北西に公用車駐車場、南西に憩いの広場を設け、西側一帯を敷地に制度上、必要とされる防災調整池に利用します。北側には職員駐車場、建物のピロティを車庫や外部倉庫に利用し、執務スペースに直接出入り可能な北口(職員通用口)を設けます。

動線

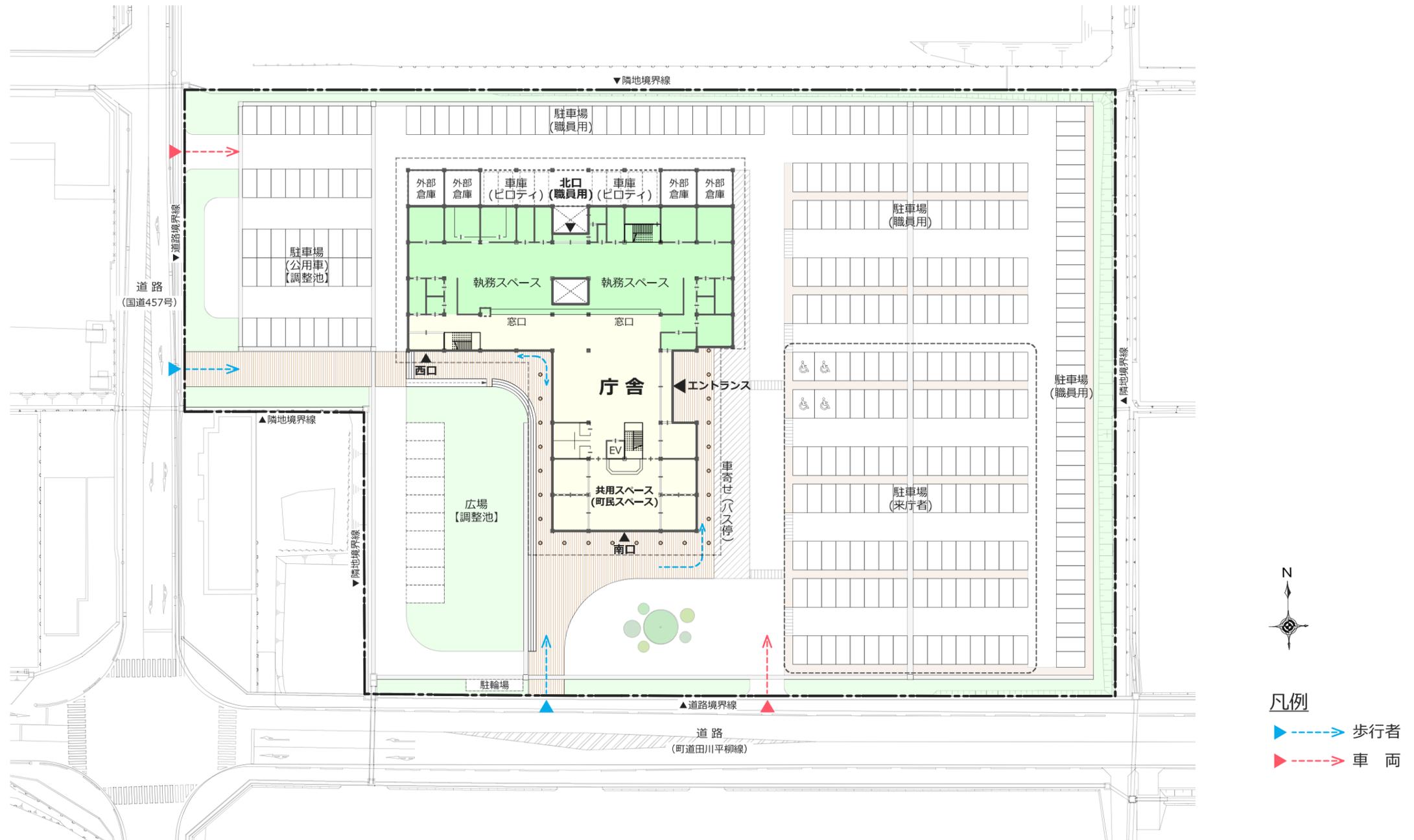
- ・東のメインエントランスの他、西側からアプローチ可能な西口、建物南の共用スペース(町民スペース)に南口を設け、歩行者は南と西の道路から建物周囲の軒下を通り、それぞれのエントランスに自由にアプローチします。
- ・車両は南の乗入口からのアプローチを基本に、建物東面の軒下空間を車寄せ(バス停・乗降エリア)とします。西の乗入口は公用車駐車場や職員駐車場に近接し、南からの通り抜けも可能としますが、車止めにより、状況に応じた運用に対応します。

町民開放

- ・庁舎内の共用スペース(町民スペース)は南にひらきつつ、西の広場、東の駐車場に面し、建物周囲の軒下空間とあわせて、内外連携した多様な活動に対応します。通常時は庁舎機能に影響のない広場との連携を基本としつつ、町の拠点として、東の駐車場を利用した大規模なイベントにおいても一体的に利用可能な構成とします。また、南の共用スペースに南口を設けるとともに、内部の区画により、休日や時間外の独立した利用も想定します。

大雨浸水対策

- ・現在の敷地は盛土により、周囲の地盤面より高くなっていることから、大雨浸水被害の可能性は限りなく低くなっていますが、さらに建物1階のフロアレベルを高く設定することで、安心安全を確保します。また、西側の駐車場、広場は防災調整池としています。



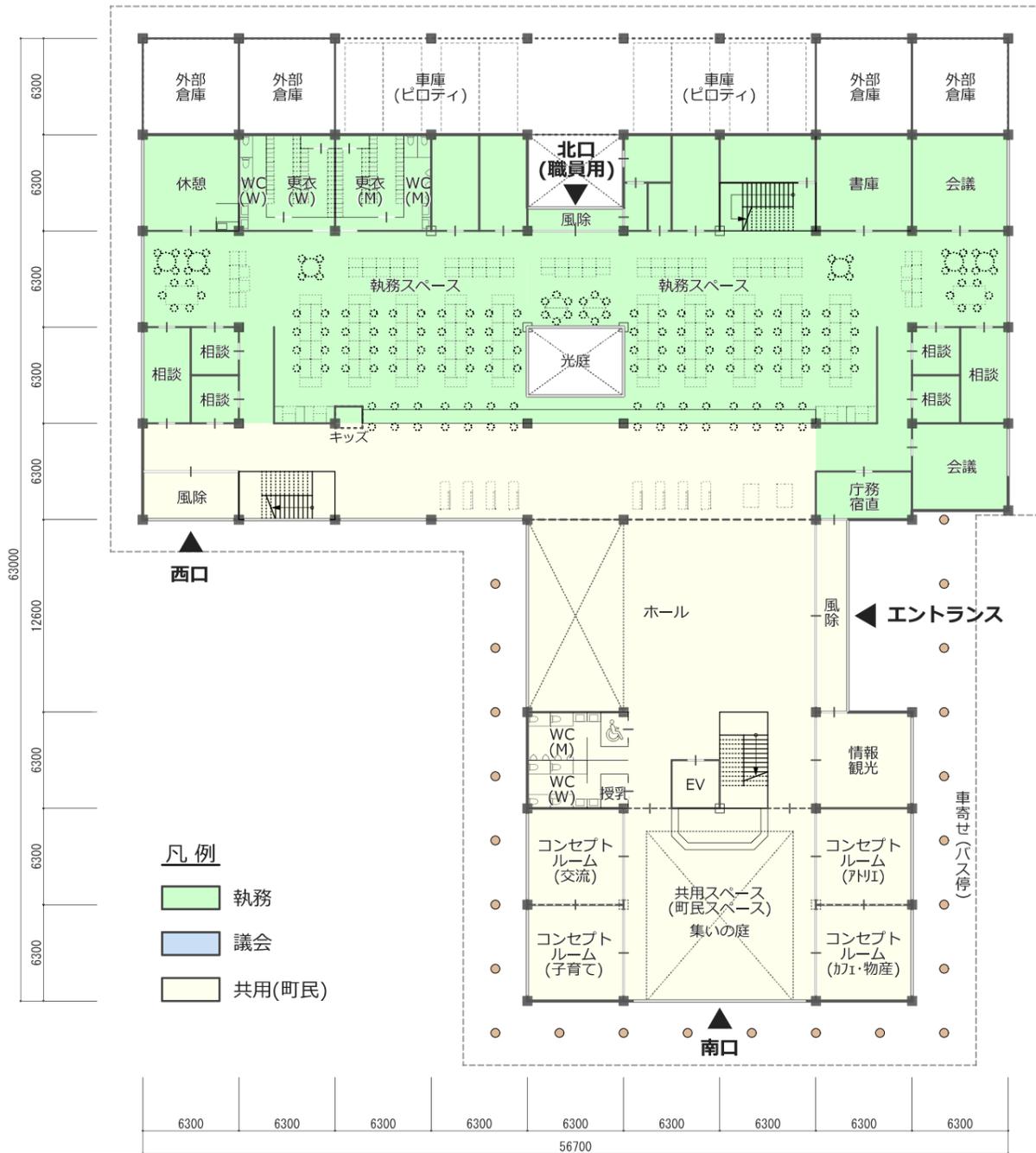
### 1階 -みんなのフロア-

- ・建物中央のエントランスホールを中心とし、北に町民利用の多い窓口、南に町民や職員も利用する共用部を設け、外部空間とつながり、利用しやすい1階を『みんなのフロア』と位置づけます。
- ・窓口はカウンターを介し、執務スペースの見通しがよく、ひらかれた構成としつつ、配置する部署の特性を考慮し、プライバシーに配慮したカウンターやブース、相談室などを充実させます。
- ・南の共用スペースは直接出入り可能な南口を設け、みんなが気軽に集い、イベントなども行える中央の土間の空間を『集いの庭』とします。周囲に町民の要望が多い用途のコンセプトルームを配置し、多様な活動に対応しつつ、職員と共同で利用していくことで、有効利用を図り、交流と賑わいを創出します。

### 2階 -執務のフロア-

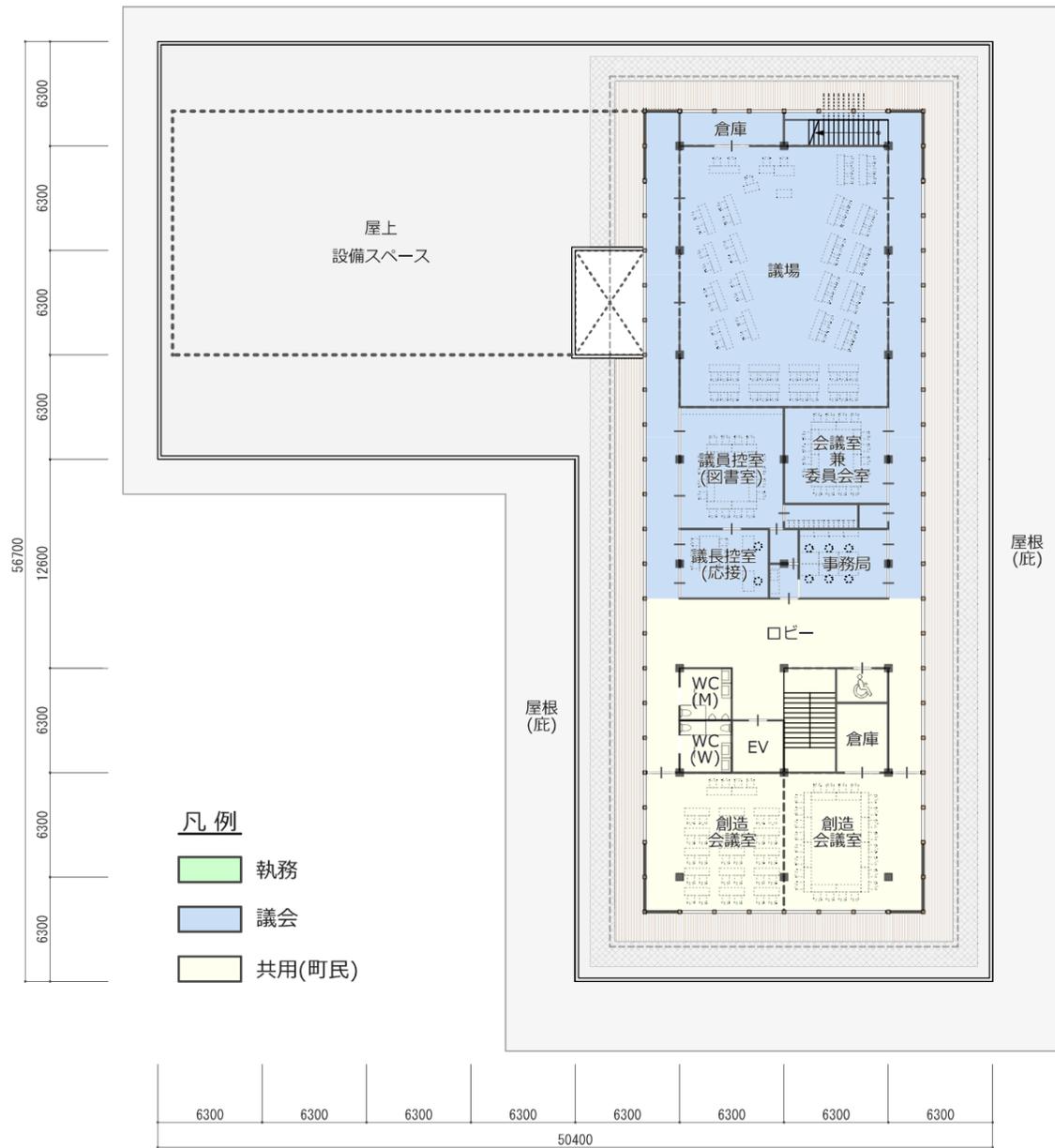
- ・L型プランの外周を執務スペース、内側の共用部を来庁者との接触ゾーンとし、南に多目的に利用可能なワークスペースを設け、2階を周囲に加美町の風景がひろがる、のびやかな『執務のフロア』とします。
- ・執務スペースは外周部に職員のバックヤードを配置し、執務スペース内を自由に行き来可能な内部動線、専用階段により、上下階の連携にも配慮します。デスク等のファニチャーは可動式とし、様々な変化に対応しつつ、要所に簡単な作業や打合せ、交流の場であるマグネットゾーンを設け、職場環境の向上を図ります。
- ・南のワークスペース、スタジオは状況に応じた働き方に対応するワーキングスペース※です。将来的な人口減少社会の担い手不足などに対応する、団体や企業、町民との協働の場としても利用可能です。

※ワーキングスペース：様々な所属(部署)の人々が共に働く場、共創空間。「Co(共同の)」と「Work(働く)」を組み合わせた造語。

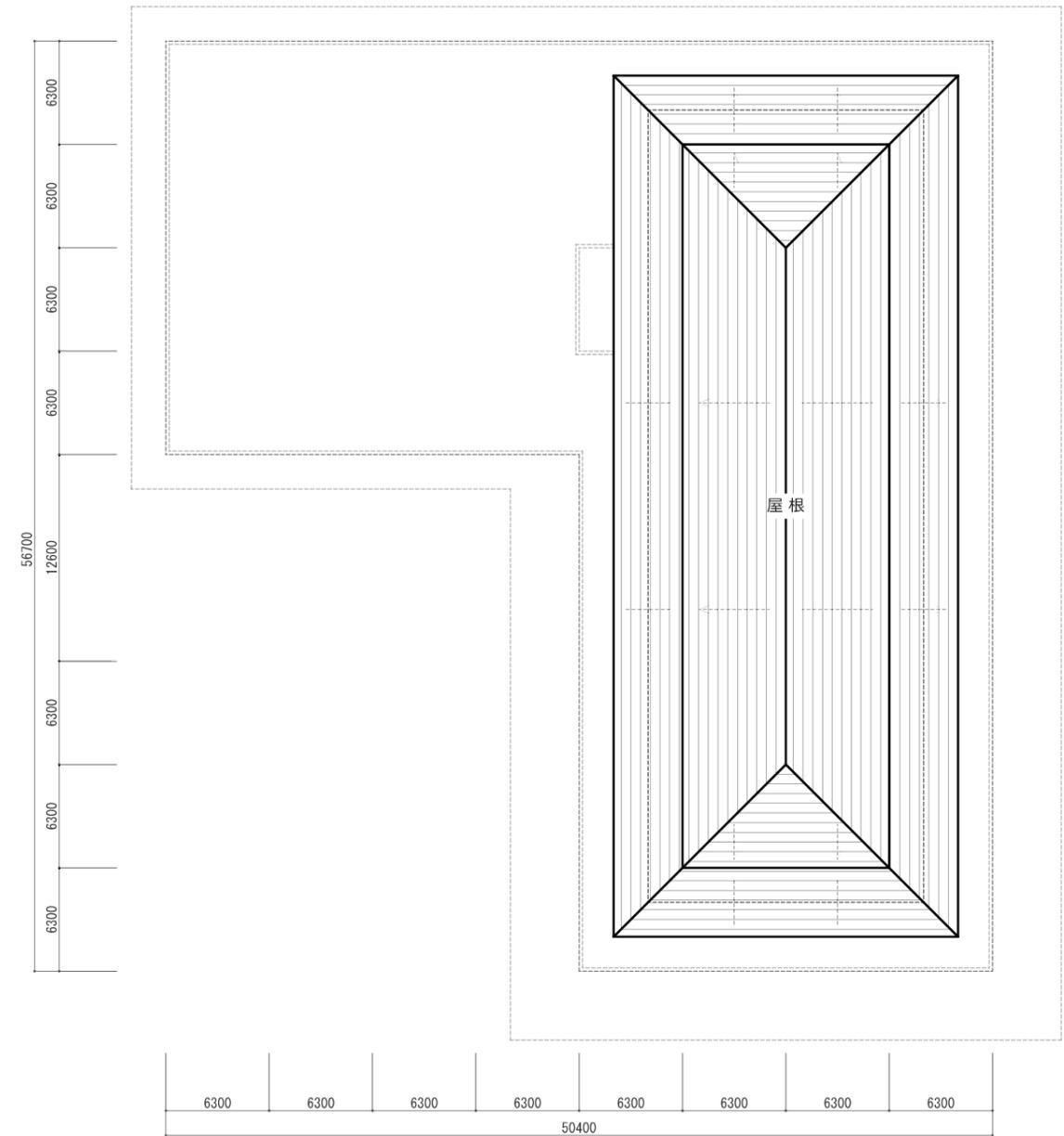


### 3階 -創造(議)のフロア-

- ・ 周囲の回廊から加美町の美しい風景を望み、北に議会スペース、南に共用の会議スペースを設け、3階をみんなで町について考え、話し合い、運営していく場である『創造(議)のフロア』とします。
- ・ 議会スペースは議会運営に支障がないように、セキュリティ、防音性などに留意しつつ、新しい議場の在り方として、固定席を設けない、議場の多目的利用を可能とします。
- ・ 南の会議スペースは職員の利用を基本としつつ、委員会や町民も利用可能な共用の会議室とし、可動間仕切りなどにより、分割や一体利用を可能とします。また、災害時の設備を備えた災害対策本部として、議場とあわせて3階を災害時の拠点とします。



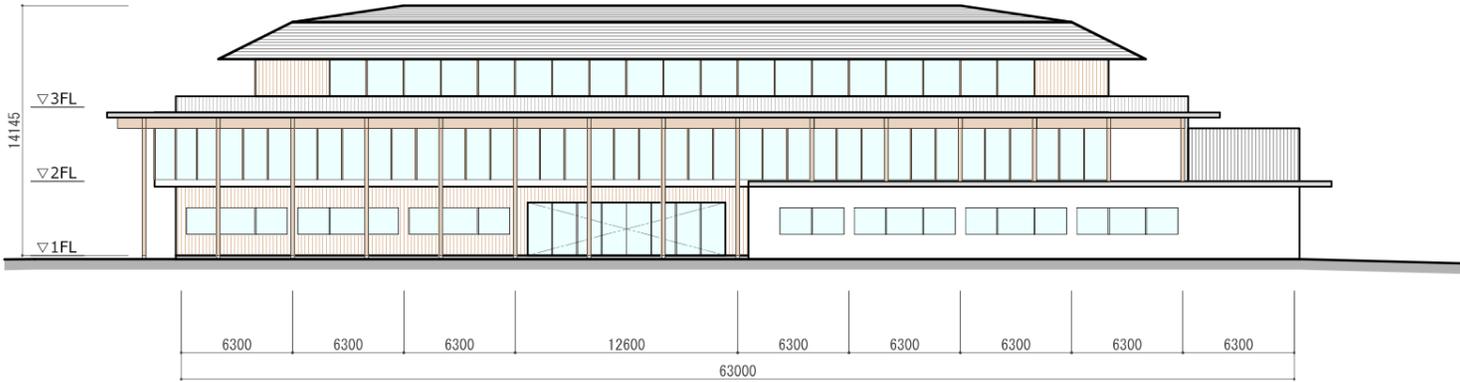
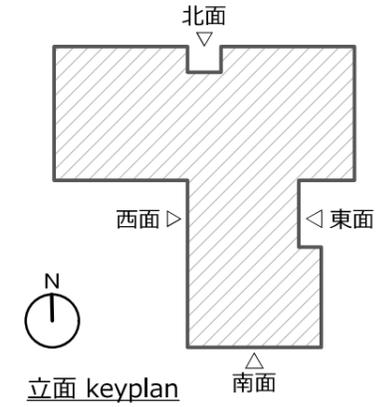
3階平面図



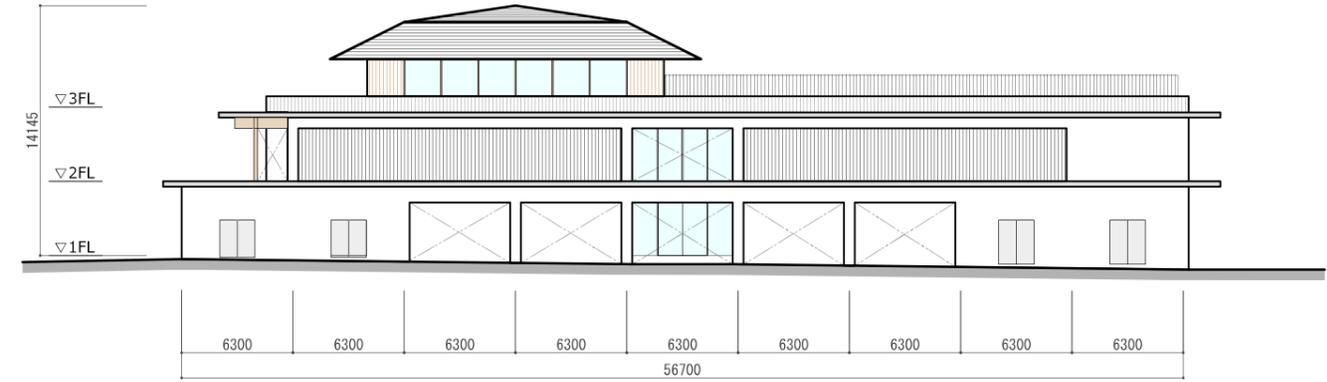
屋根伏図

立面 -町の風景に調和する庁舎-

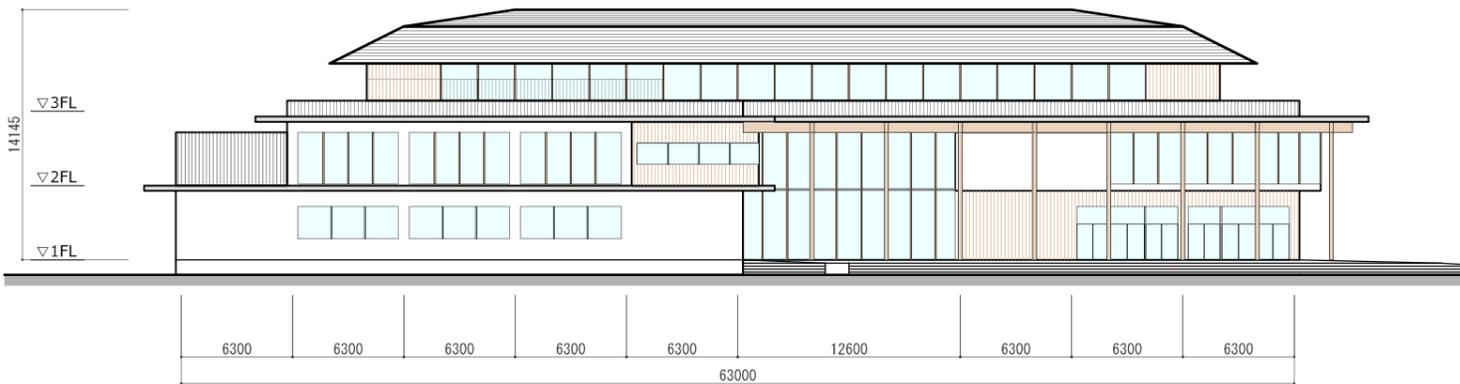
- 屋根が織り成す風景や薬菜山をシンボルに西にひろがる山並みと呼応する大屋根と周囲の大庇が、建物をやさしく包み込み町の風景と調和した加美町らしい庁舎とします。
- 庁舎は東の玄関口に構えるゲートとしての位置づけと、西にひろがる町からの正面性、南の広場や共用スペースの賑わいなど、町の各方面からの見え方(魅せ方)に配慮し、各面に表情のある建物とします。
- 大屋根と周囲の大庇により、建物を保護し、外装は耐久性の高い材料を基本に、深い軒に守られ、外部からメンテナンス可能な部分を町産木仕上とし、ぬくもりある、親しまれるデザインとします。
- 外皮の断熱性を高め、熱負荷の大きい外部サッシのガラスには高断熱のLow-Eガラスを採用します。



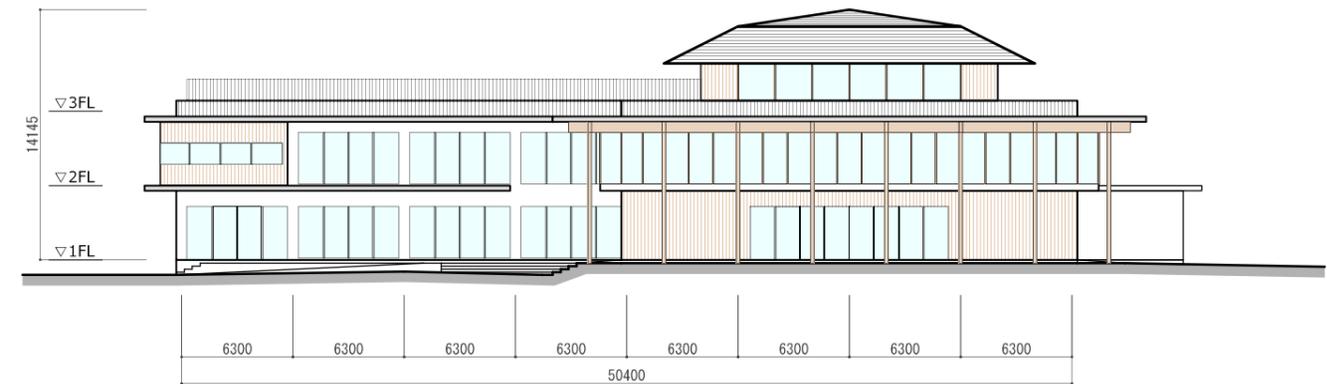
東立面図



北立面図



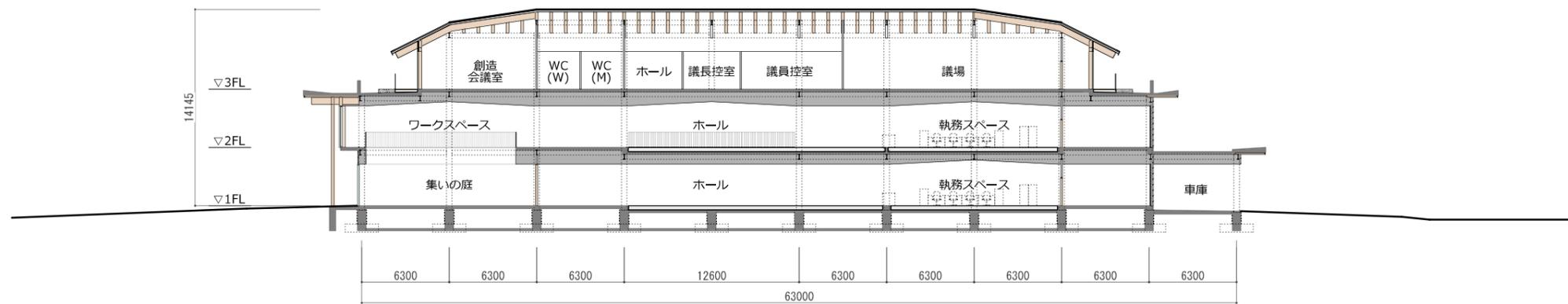
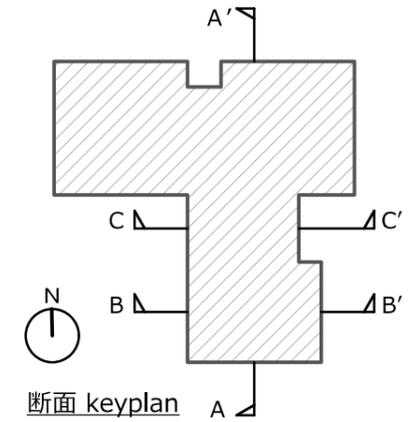
西立面図



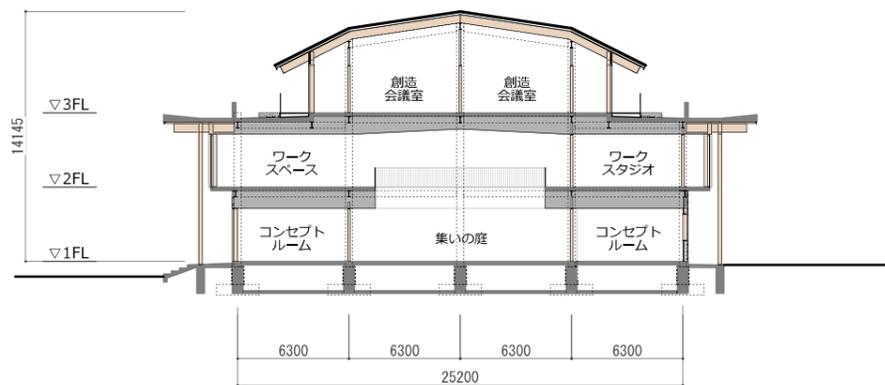
南立面図

断面 -ヨコとタテにつながる明快な階構成-

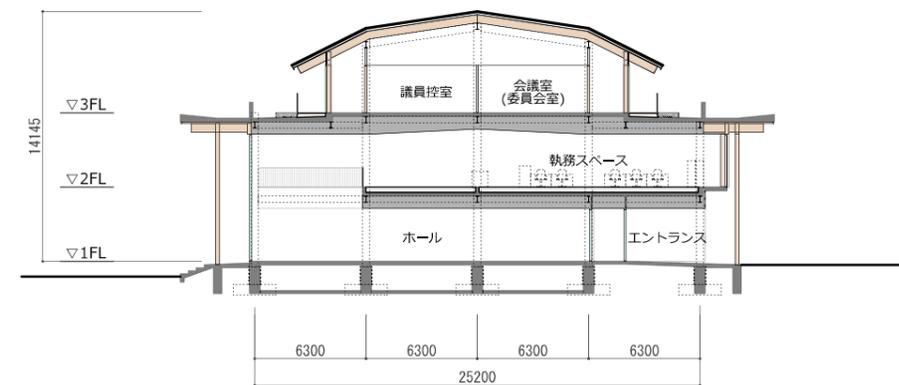
- 1階は町民利用の多い窓口と共用部から成る『みんなのフロア』、2階は執務スペースを中心とした『執務のフロア』、3階は議場、会議室を設けた『創造(議)のフロア』として、わかりやすい明快な階構成とします。
- 周囲の窓から自然の採光、通風を取り込み、吹抜けや光庭を利用し、風の道をつくります。水平(ヨコ)方向と垂直(タテ)方向の開放性を確保し、快適な室内環境を実現するとともに、空間のつながりと一体感のある断面構成とします。
- 大屋根と周囲の大庇により、日射をコントロールするとともに、風雨(雪)から建物を保護し、メンテナンス負担軽減と耐久性向上を図ります。
- シンプルかつ規則的な構造スパンで構成し、執務空間のロングスパンに適した鉄骨造を主体としつつ、3階の一部を木造とするなど、軟弱地盤において、建物の軽量化を図り、耐震性を高めつつ、庁舎の天守ともいえる3階の創造(議)のフロアの一部を木造とすることで加美町らしさを体現します。



A-A' 断面図



B-B' 断面図



C-C' 断面図